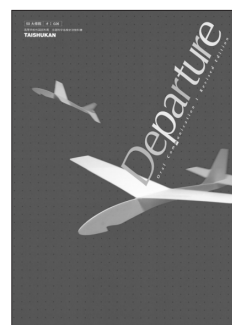


Departure OCI Revised Edition

■Lesson 13 Which “English” Do You Speak?

アジア諸国の英語使用状況と特有の英語表現



Departure OCI ではアジアの国際共通語としての英語を扱っています。本稿では私が留学したインド、学生の海外研修引率でよく訪問するシンガポール、調査のために数回訪問したフィリピンについて、その英語使用状況と特有の英語表現を紹介します。

インドの英語

インドは典型的な多言語国家です。憲法では、英語とヒンディー語を連邦の公用語と規定し、22の主要言語を指定しています（その主要言語のほとんどが各州の公用語）。旧イギリス植民地のインドでは、英語はエリート層の共通語として発展してきました。現在、インドの中間層以上のほとんどは英語をある程度話せて、特に、都市部の英語で教育を受けた人の英語力は相当なものです。

Air India を利用すると、インドの英語の洗礼を受けることができます。食事時には客室乗務員が “Veg or nonveg?”（菜食料理か肉食料理のどちらにしますか）と尋ねます。インドでは vegetarian が多数派で、少数派の肉食者は non-vegetarian と呼ばれるのです。機内映画は Bollywood（Bombay + Hollywood）というムンバイで製作されるヒンディー語映画でしょう。

インドで英字紙を読むと、lakh(10万)や crore(1000万)等の語が付いた数字に遭遇します。インドの財閥系自動車会社 Tata Motors が、一昨年、世界最安の車 “Nano” の開発を発表しましたが、そのキャッチコピーは “1-lakh car”(10万ルピー車＝日本円で約20万円)です。

インド人と親しくなると、“What is your good

name?”（ご尊名は）や “What is your native place?”（ご出身はどちらですか）と聞かれます。また、インドでは未婚か既婚かを尋ねられることが多いですが、家庭を大切にするインド人にとって、相手の家族について知りたがるのは自然なことです。ちなみに、多くのインド人は新聞やウェブの matrimonials（結婚相手募集欄）で結婚相手を見つけます（Yahoo! India にも写真付き英語版 matrimonials があります）。なお、恋愛結婚をインドでは love marriage と言います（標準的な英語では love match）。

また、インド人男性は小用に立つ合図として小指を立てます（*Departure* p.77参照）。私のインドの友人によると、これは英語の幼児語 number one（おしっこ）に由来するそうです。それに、インドでは聖なる動物である牛の糞を乾燥させ、それを cow-dung cake と呼び、煮炊きの燃料として使い、素手で触っても平気な顔をしています。

シンガポールの英語

都市国家シンガポールは、中国系、マレー系、インド系、その他の民族が混在する多民族国家で、無資源の小国ゆえに、経済発展のために人材開発（教育）と英語を重視してきました。国語はマレー語で、公用語は中国語（華語）、マレー語、タミル語、それに英語です。1990年以降、政府は4つの公用語の中で特に英語を重視しています。

シンガポール特有の英語である Singlish は、中国語、マレー語、タミル語が混交した英語です。教育格差の大きいシンガポールでは、教育レベルの高い人は標準的な英語と Singlish を話し

分けますが、教育レベルの低い人は Singlish だけを話します。政府は外国人に通じにくい Singlish を抑制するため、Speak Good English Movement を推進していますが、依然として多くの人が Singlish に愛着を持っています。

Singlish でまず戸惑うのはその発音です。語末の [p][t][k][b][d][g] 音はつまった音になり、子音が2つ連続すると後ろの子音が発音されません。ですから、behind は「ビハイン」、airport は「エアポツ」と聞こえます。また、Singlish では l と r の発音の区別が曖昧なので、私たちが苦手な l と r の区別を気にする必要がありません。

もっとも Singlish らしい表現に、文末の lah があります。これは日本語の「ね」や「よ」のように表現を和らげる効果があり、たとえば、“No problem, lah.”（問題ないよ）のように使います。can と cannot の用法もユニークで、“Can speak Singlish or not?” “Can / Cannot.”（「シングリッシュを話せますか？」「話せます／話せません」）のように使います。強調するときは反復し、“Can, can.”（できますとも）と言います。その他、hawker centre（屋台広場）、food court（デパート屋内の hawker center）などの語句も有用です。

フィリピンの英語

100近い言語が話されているフィリピンでは、英語とフィリピン語が共通語となっています。そのため、憲法で、フィリピン語を国語および公用語、英語を公用語と定めています。教育においても、小学校から理数系科目は英語で教えられ、大学レベルになるとほとんどの科目が英語で教えられます。海外の出稼ぎ者からの送金に依存するフィリピンでは、海外で働くためにも英語が必須となっています。ある調査によると、フィリピンの人口の74%が英語を理解するそうです。

現在、フィリピンでは韓国や台湾からの多くの留学生が英語を学んでいます。広い意味での英語圏であり、近くて物価が安いことがフィリピン留

学の魅力になっています。なお、フィリピン人の英語力は相当なものです。私の勤務校では、年数回、フィリピンの大学生とテレビ討論をおこなっていますが、TOEIC で800～900点を取る学生でも、フィリピンの大学生にはなかなか歯が立ちません。

次に、フィリピンの英語特有の表現をいくつか紹介します。フィリピンでは、toilet という語が通じないことがあり、そのときは“Where is the comfort room?” と言えば通じます。女性が強いフィリピンでは、自分の妻を manager とか commander と呼ぶ夫や、“I am under the saya.”（私は女房の尻に敷かれている）と言う男性が多いそうです（saya はスペイン語で「スカート」の意味）。また、物事をはっきりと断るのが苦手なフィリピン人は、しばしば、“No.” の代わりに“I’ll see.” あるいは“I’ll try.” と言います。

フィリピンの英語の色彩感覚は標準的な英語と少し異なり、フィリピンでは停電を brownout と言います（標準的な英語では blackout）。また、フィリピンではしばしば略語を用います。前記の comfort room（トイレ）は CR, mutual understanding（お互いに好意を持っている関係）は MU, overacting（大げさなしぐさ）は OA, thank you は TY となります。

おわりに

私の勤務校の卒業生には、海外拠点を持つ企業に就職する人が多く、派遣先はたいいていアジアの国です。アジアには英語母語圏よりも英語使用者数が多いと言われ、実際、現地語だけでなく英語も重要なコミュニケーション手段となっています。現地特有の英語表現には現地の文化が反映されています。アジアの英語の知識は、アジアの人とのコミュニケーションだけでなく、その文化の理解にも役立ちます。国際的に英語を使っていくうえで、今後は、アジアの英語の知識がいっそう重要になるでしょう。

えのきぞのてつや
（榎木 菌鉄也・中京大学教授）